

# 知道 CHIDO-KAIHO 会報

# 79

編集 知道会広報委員会  
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1  
茨城県立水戸第一高等学校内  
発行人 角田芳夫  
発行日 平成23年9月25日  
通巻 第79号  
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	特集	会員の集い	2
	一高だより	弓道部、化学部ほか	4
	REPORT	被災地石巻を訪ねて	5
	同窓会・支部だより	よんろく会ほか	6

## 震災義援金 ありがとうございます

校友の皆様には  
ただ感謝するのみ

知道会会長

角田 芳夫



今回の大震災、津波これに続く放射能汚染の問題は、直接被害を受けた東北三県および本県のみならず、あらゆる意味で我が国に大きな被害をもたらしました。

我が母校水戸一高も御多間にもれず被害を受け、今年の入学式では体育館が使用できず、新入生は校長の訓辞を各教室で聞く事態となりました。まったく異例のことです。

私も知道会会長として放送室を通じて祝辞を述べましたが、「この大災害の中から我が国が立ち直るためには、第二次大戦後の荒廃の中から日本が不死鳥のようによみがえったように、国民誰もが堪えがたきを堪え、忍びがたきを忍ぶ気持ちを持つべき時である」と述べ、奮起を促しました。

戦後間もない、昭和25年の一高入学の私には、入学式の当日未だ復興ならず、廃墟と化していた水戸市街の姿が脳裏をかすめたからです。

ところで、大きな被害を受けた母校復旧のために義援金を校友の皆様にお願いたしましたところ、9月1日現在で約1,800人の校友の方々から総額2,100万円余が寄せられています。多額の募金を寄せられた東京知道会をはじめ、各地の知道会そして県内の地域、職域の皆様の善意のおかげであります。

寄せられたこの貴重な募金につきましては、とりあえず緊急の母校復

興の資金に充てますとともに、残余につきましては将来の母校支援のために使わせていただきたいと思います。

母校は着々と復興しつつあります。機会がありましたら、是非母校にお寄りいただきたいと思っております。母校は今後とも姿を変えることなく水戸城址の地に大きく根づいていくことでしょう。

本当にありがとうございました。

「ふるさと応援募金」の経緯とご支援の御礼

東京知道会会長

助川 裕 (昭42卒)



東京知道会では、大きな被害を受けたふるさと茨城県に義援金を、3月17日に手持ち資金からお贈りすると共に、「ふるさと応援募金」活動を開始しました。幸いにも、当会の会員は、比較的被害が少ないため、「ふるさと茨城を応援しよう」という主旨で、「ふるさと応援募金」と名づけました。

しかし、会員から「母校も大きな被害を受けており、母校も支援すべき」という声があり、4月1日に母校を訪問して、被災状況の確認と支援方法について打ち合わせを行い、更なる募金活動を展開した次第です。支援方法については、募金活動の終了を待つのではなく、授業に必要な備品をなるべく早く、寄贈する方式を提案して、逐次母校と連携しながら実施しました。

支援活動につきましては、当会が

先行しましたが、知道会の「義援金の募集」開始以降は、義援金は合算すると共に、連携して実施してまいりました。

最後になりましたが、「ふるさと応援募金」に528名の方々より、目標額を大幅に上回る730万円の御支援をいただきました。これも、ひとえに故郷そして母校に対する熱い思いの表れと感謝しております。皆様の絶大なご支援に、厚く御礼申し上げます。

温かいご支援  
ありがとうございました

校長 早川 源一



この度の東日本大震災の被災に対しまして、知道会の皆様から様々な形で激励やご支援を頂き、誠にありがとうございました。

被災状況につきましては、前号に記載させて頂きましたが、やはり9月になっても完全回復には至っておりません。特に、体育館が使用できないため、相変わらず体育の授業、部活動、学校行事等に大きな支障が出ております。

しかしながら、知道会の皆様の義援金によりまして、年度当初に必要な実験機器、図書館の書棚、校舎外での放送設備、知道会館のエアコン、グラウンドの補修、武石浩玻像の補修等をして頂き、一般の授業はほぼ支障なく行えるようになりました。

この大きなご支援に対して厚く御礼申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援をお願いいたします。

# 特集

## 会員の集い開催

11/19(土) 水戸京成ホテル



昨年の集い

平成23年度(第61期)「知道会会員の集い」を次のとおり開催いたします。今回は、昭55、平2、平12卒が幹事学年となり、「会員の集い」の企画を立案致しました。

今回のキーワードは、「つながる、つなげる」。会員の皆様多数のご参加をお待ちしております。

なお、参加される方については、出席会費(5,000円)の事前振込みをもって参加申込みとさせていただきます。同封の振込用紙「会員の集い参加申込用」によりお申込みください。

日時/平成23年11月19日(土)

午後2時30分～6時

場所/水戸京成ホテル

水戸市三の丸1-4-73

電話 029-226-3111

会費/5,000円

幹事学年/昭55卒、平2卒、平12卒

<第1部>講演会 午後2時30分～

[パートI]

講師 鬼澤宏幸氏(昭55卒 株式会社幸田商店代表取締役社長)

演題 「ほしいも学校のつながり」

[パートII]

講師 須能邦雄氏(昭38卒 石巻魚市場株式会社代表取締役社長)

演題 「石巻漁港の復活(仮題)」

<第2部>懇親会 午後4時15分～

今回の企画は、「のど自慢～歌声喫茶になるかも～」と題して、会員の皆様の歌声を披露していただきます。是非、歌いたい方、歌いたい曲がありましたら、右ページ

の要領で事前申し込みを!多くの方々の申し込みを期待しています。

### 代議員会議を同日開催

「会員の集い」の前に、第27回代議員会議を開催いたします。この会議は本会の議決機関であり、各学年・地域・職域の代議員多数の出席により審議をお願い致します。

日時/平成23年11月19日(土)

午後1時30分～

場所/水戸京成ホテル

議題/第60期事業報告

第60期決算報告

会計監査報告

第61期事業計画(案)

第61期予算(案)

その他



講師  
鬼澤 宏幸

株式会社幸田  
商店代表取締役  
社長  
(昭55卒)

1962年 茨城県ひたちなか市生まれ。  
1981年 水戸第一高等学校卒  
1985年 明治大学商学部卒  
1985年 国分株式会社入社  
1994年 株式会社幸田商店入社  
1999年 代表取締役社長に就任  
2009年 有限事業責任組合ほしいも学校  
設立

幸田商店は講師の父である鬼澤 清により1948年に肥料販売店として創業、1962年にほしいもの集荷・販売を始め。現在はさつまいもや麦、豆などの加工品の開発や販売が主業務で、ほしいものを中心に100種あまりの商品を取り扱う。2007年度経済産業賞IT経営百選の優秀企業の認定をうける。ひたちなか市の専用工場のほか、中国・青島にも専用工場を持つ。従業員数110人。2011年4月期売上21億円。2010年には茨城の特産品「ほしいも」を通した様々な取り組みが評価され、県の産業発展を

### 第1部 講演会

## 「ほしいも学校のつながり」

支え地域経済活性化に顕著な貢献をした県内企業・団体を表彰する「いばらき産業大賞」を受賞。

「地域資源」としてほしいもを活用するため、地元企業と連携して各々の得意分野を生かし、機能性を高めた新商品の開発や販売などを行っている。企業とともに学ぶ場である「ほしいも学校」を地域に広げ、百年といわれるその歴史をまとめた本の出版、小学生のほしいも作りの体験受け入れなどとおして、次世代への継承活動を進めている。

[講演要旨]

2007年の暮れに、ほしいもの商品開発をするために銀座にある佐藤 卓デザイン事務所を訪れました。佐藤さんは、明治のおいしい牛乳やロッチェのキシリトールガムなどをデザインした超一流のグラフィックデザイナーです。佐藤さんは1年前に水戸芸術館で「日常のデザイン」という展覧会を開き、茨城産のほしいもや納豆を使用した商品開発をすでに行っていました。佐藤さんに「干し芋というのは垢抜けない。カッコ悪

い。不細工。しわだらけ。でこぼこ。不均一。およそ現代が求めるもの真逆のものだ。でもおいしく、いとしい。そこに魅力を感じてしまった。ここに未来がある。干し芋から宇宙を見よう。」と言われました。話している中でほしいも学校というコンセプトを私どもに投げかけてくれました。それがほしいも学校の始まりです。最初の佐藤さんの提案は、干し芋をもう一度あらゆる角度から見つめ直して見よう。歴史であったり、商品そのものであったり、そしてそれをまとめた本と商品を作ろうというものでした。その後ほしいも学校の6つの目的を設定しました。①コミュニケーションの場②商品開発③ワークショップでの教育④広報⑤農業・食を考える場⑥後継者育成です。それを実行するために干し芋に関心のある地元の若い人たちがプロジェクトメンバーに加わりました。ひたちなか・東海・水戸でのシンポジウムやイベントを通じてほしいもの輪が広がり始めています。ほしいも文化を次の時代につなげる活動が進行中です。

## 第2部 懇親会

### 歌い手（歌いたい曲） 大募集！

今年の懇親会は、「世代を超えた語らい」を目ざして、懇親会の出席者全ての方が参加でき、しかも会場全体が一体となれるようなものにするべく検討しています。

幾多の打ち合わせ？（ただの飲み会とも言うが…）を重ねた末に考え出されたアトラクションは、なんと「のど自慢～歌声喫茶になるかも～」。

基本的にはのど自慢ですが、参加者が少ない場合には歌声喫茶になります。

「歌声喫茶」って何？と思われる方もいらっしゃると思います（実は私も知りませんでした）ので、少しネットで調べてみたものを紹介します。

「この記事は検証可能な出典がまったく示されていないか不十分です。」と表示されているウィキペディアなので信頼性に不安はありますが、その点

についてはご容赦ください。以下、ウィキペディアの抜粋です。

「歌声喫茶は日本において1955年前後に流行した飲食店の一形態。リーダーの音頭のもと、店内の客と一緒に歌を歌うことを主目的にしている。歌われる歌はロシア民謡、唱歌、童謡、労働歌、反戦歌、歌謡曲など。店が独自に編纂した歌集を見ながら歌うこともできる。」

一言で言えば、好きな歌を1～数名のリーダーを中心にして、会場全員で歌うということです。

ということで、自慢の歌声を披露したい方（のど自慢だった場合）、リーダーとなってステージで歌いたい方（歌声喫茶になった場合）（ステージが設置できるかわかりませんが…）、また、参加者全員で歌いたい曲（ジャンル不問）を募集します。

歌う曲は、当日の参加者全員に印刷して配らないと盛り上がりませんので、ぜひとも事前の申し込みをお願いいたします。歌詞カードがなくてもみ

んなが歌えるような曲であっても、歌詞カードがあればより大きな声で歌えることから盛り上がること間違いありませんので、よろしくお願ひします。

なお、のど自慢になっても審査は司会の独断で、また、景品等は会場の拍手で…となります。

#### のど自慢

##### ～歌声喫茶になるかも～ 事前申し込み等

10月20日までに、①お名前②卒年③歌いたい曲④ご自身で歌うかどうか⑤連絡先電話番号を、Eメール [konshinkaih23@yahoo.co.jp](mailto:konshinkaih23@yahoo.co.jp) またはファックス（029-226-4157）でお知らせください。

※当日受付は、参加者が少ない場合のみ可能ですが、歌う曲は、こちらで用意した中から選んでいただくようになります。

## 学年幹事紹介

### 昭和55卒

幹事の堀江英夫です。私は野球部にいたため、部室とグラウンドの記憶しかないのですが、同級生みんなの力を借りて在学中の思い出を。

在学は昭和52年4月から昭和55年3月まで。最大の出来事は、在学中の昭和53年に水戸一高が創立100周年を迎え、現在の知道会館が建設されたこと。

他には、無事3年間実施できた歩く会。暑くて寒かった教室。（私事ですが）野球部ベスト16進出。新しく導入された共通一次試験（私たちが2年目でした）。授業後も議論する先生と生徒。そして、先生方の暖かい言葉。同級生の優しい笑顔（ケンカもしましたが）。

私たちも50歳を迎える年になりました。同級生も様々な分野で活躍しておりますが、これからは先輩方のご指導や後輩の皆様の応援を頂きながら、世界の、日本の、茨城県の発展に向けて力を尽くしていきたいと思ひます。会員の集いで多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

### 平成2卒

幹事：宮崎雅弘、高橋 徹、中村忍

平成2年卒として当時のことで一番記憶に残っているのは、なんと言ってもセンター試験です。

私たちは、センター試験に切り替わった最初の年に当たってしまったので、試験当日、どうなるのか多少不安を感じながら試験を受けに行き、学校での予想問題と同様だったので、ほっとしたことを覚えています。

また、入学当時は、「タカさ～んチェック!大～どん～でん～返し」など集団お見合い番組「ねるとん紅鯨団」が始まり、バブル全盛時代でしたが、個人的にはドラクエなどファミコンゲームにはまっており、バブルって何という感じで、恩恵には与れませんでした。

しかし、卒業する頃には、ベルリンの壁が崩壊したり、株価は下落しバブル崩壊が始まるなど、当時は知るよしもありませんでした。時代が動き始めていたのだなあ～と思ひました。

平成2年卒は担当幹事ですので、こちらからお声かけをしますが、積極的に出席をいただき、ついでに学年同窓会でもと思ひますので、多数の参加をよろしくお願ひいたします。問

い合わせは [konshinkaih23@yahoo.co.jp](mailto:konshinkaih23@yahoo.co.jp) までお願ひいたします。（文責 宮崎）

### 平成12卒

4月1日より、それまで3%だった消費税が5%に上がった。そんな1997年（平成9）春に入学した私たちを迎え入れてくれたのは……当時新校舎の建設が進められている最中であつた為、テニスコート跡地に建てられたプレハブ校舎でした…。夏は暑く、冬は寒い校舎に1年間鍛えられた私たちは、2年に進級すると同時に完成した新校舎（現在の2号館）へと移り、晴れて新校舎に通う最初の学年の一つとなりました。

私たちが在学していた3年間は、ちょうど携帯電話（PHS）が普及し始めた時期と重なり、ポケベルから乗り換える同級生も中にはいたような。そんなアナログとデジタルの過渡期であつたことなどはそれほど意識もせず、至って堅実(?)に学校生活を送っていました。

最後になりますが、「集い」終了後、12年卒の同窓会を開催いたします。場所は水戸駅北口の三の丸ホテル、会費は6,000円程度を予定しております。こちらへも多くの皆様のご参加をお待ちしております。（平12卒幹事 飯田貴裕）

## 22年10月

- 2日 那珂知道会
- 8日 27会
- 9日 日立知道会
- 19日 27会 東京総会
- 23日 にさし会

## 11月

- 6日 昭和54年卒同窓会
- 14日 大洗知道会
- 20日 西日本水中一高会
- 27日 桜川知道会
- 28日 瓜連知道会

## 23年1月

- 2日 昭和39年卒同窓会
- 3日 昭和43年卒同窓会

## 2月

- 26日 東京知道会同窓の集い

## 5月

- 21日 平成3年卒同窓会

## 6月

- 4日 知道会ゴルフ大会
- 4日 笠間知道会
- 4日 常陽知道会
- 12日 みつば知道会総会
- 18日 岩間知道会
- 20日 県庁知道会

## 7月

- 9日 土浦水中一高会
- 16日 日立知道会
- 17日 友部知道会
- 23日 鹿行知道会

## 8月

- 13日 昭和42年卒同窓会
- 13日 行餘学会(那珂湊知道会)
- 13日 昭和46年卒40周年記念同窓会
- 20日 昭和41年卒同窓会
- 27日 新莊知道会

## 9月

- 9日 地域知道会交流会
- 10日 下市知道会
- 28日 勝田知道会総会

## 弓道部 インターハイ出場

8月上旬に、岩手県盛岡市で北東北インターハイ弓道競技大会が開催された。本校からは、山村征寛(23)が男子個人の部で出場した。

予選と準決勝で皆中という好成績を残し、決勝戦への進出を決めた。決勝戦は射語で行われたが、惜しくも3本目で敗退してしまった。来年度は団体の部でインターハイに出場すべく、目下練習に励んでいるところである。

## 陸上競技部 全国へ跳ぶ

陸上競技部は6月の関東大会に男女6種目に出場をし、男子走高跳に出場した春日久寛(26)が見事に6位入賞を果たしIH(全国総体)の切符を手にした。

IHは、8月6日に岩手県北上市で行われた。予選の最初の高さは自己記録の1m95cmだったが、惜しくもクリアをすることが出来ず、記録なしの結果に終わった。暑い気温の中、高いバーを軽々とクリアする選手達を目にした。そこで、自己記録をさらに高めることやそのためには走高跳以外の種目の競技力も上げることの大切さを学んだ。

今後は、来年の新潟IHでリベンジを果たすために、基礎体力を向上させて高い競技力と力強い精神力を身につけたい。

クイズ研究同好会  
5年連続全国大会出場

7月31日にお台場で行われた第31回全国高等学校クイズ選手権関東予選に9チーム27名が参加し、うち秋山智信(35)、川井康平(38)、萩谷昌平(38)組が茨城県代表として、5年連続全国大会出場を果たした。全国大会では、2回戦進出は叶わなかったが、各都道府県代表55チーム中、11位の好成績を残し、日々の活動の成果を示した。

## 棋道部

棋道部は、8月に福島県で行われた全国高校総合文化祭に、囲碁部門男子

個人戦で、宮崎義知(32)が出場した。宮崎は6試合を行い、2勝することができた。惜しくも入賞には至らなかったが、全国の強豪と対局することができ、よい経験になっただろう。

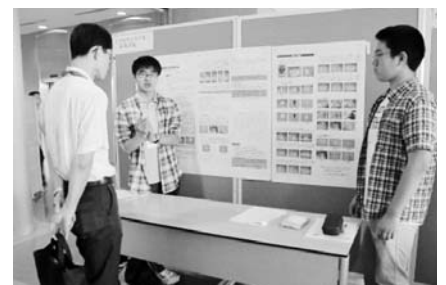
棋道部は、囲碁と将棋の活動を行っている。最近では、囲碁を主に活動する部員が少ない傾向にあるが、少数精鋭で一丸となって、囲碁の活動を盛り上げていきたい。

## 化学部 全国総文祭出場

8/3(水)~4(木)に、福島県郡山市の日本大学工学部を会場として開催された第35回全国高校総合文化祭。今回から新設された「自然科学」部門で、種目「ポスター発表」(県代表枠1件)に出場しました。

発表内容は「PVA(ポリビニルアルコール)ゲルを用いたゲル収縮に関する研究—ゲルの形状と収縮の方向特性について—」で、部長の桐原正隆(24)と副部長の佐藤拓也(28)が6人の化学部員を代表して参加しました。

ポスター発表は高さ120cm×幅180cmのボードにポスター3枚を掲示して、参加生徒がポスターの前でプレゼンテーションを行う形式。2日間にわたる発表終了後には交流会もあり、全国の高校生と親睦を深めるとともにさまざまな意見の交換ができて、とても有意義な経験ができました。



## 写真部 全国総文祭出場

8月3日から福島県会津若松市で開催された第35回全国高校総合文化祭(ふくしま総文)写真部門に写真部の猿田真由(22)が参加した。

昨年度の茨城県高校総合文化祭美術展覧会で出品した作品を全紙に拡大したものを展示した。惜しくも総文祭において賞をとることはできなかったが、全国レベルの作品を見たり、プロの写真家による講評を聞く機会を得たりできたことは貴重な経験であった。

## REPORT

# 被災地 石巻を訪ねて

多分、3月30日のことだと思う。テレビのニュースを見ていたら、被災した石巻漁港の復興を熱っぽく訴えている男が映っていた。同期の須能君ではないか！早速、同期の仲間に声をかけたところ、瞬く間に65人の同期生から多額の義援金が集まった。同期の小泉、持丸、広田の各氏と小生とで須能君の激励と慰問のため石巻を訪ねた。訪問記を持丸氏に、写真を小泉氏にお願いしたので、以下に掲載する。

知道会副会長 川又 諭（昭38卒）

### 石巻慰問

平成23年5月29日—あの大震災から80日が過ぎたこの日も、石巻は震災当時のまま、まるで廃墟のような光景であった。

港までの道筋には崩れ果てた工場が続き、民家は大半が流されて土台だけが何とか家だった面影をとどめている。海岸近くに生えていた松はほとんどなぎ倒されているが、中には折れかけた松の幹に乗用車が宙づりになっていることもある。テレビの画面では見たことがあるが、目の当たりにすると不気味であった。

石巻に着く。これまで東洋一の規模を誇っていたという石巻魚市場は見る影もなく消え失せ、わずかに残る何本かの折れ曲がった鉄骨の柱が、かろうじてかつての市場の建物であった痕跡をとどめている。

この石巻魚市場の社長が、水戸一高38年卒業の須能邦雄氏である。

この日は、川又諭氏を代表とする38会の有志4人が、同窓生65人から寄せられた義援金を持参して石巻の須能氏を訪ねたのだった。その須能氏の案内で私たち一行は石巻漁港を視察した。

総延長654メートルもあったという水揚げ棟の鉄柱は根こそぎ津波によって引き抜かれ、屋根とともに押し流された。さらに



壊滅的打撃を受けた石巻漁港

敷地一帯は地震によって1メートル以上も陥没し、海水が押し寄せて今でも陸と海の境が分からぬほどである。

この日は台風2号の影響で断続的に雨が降り、港（正確に言えば、かつて港のあった海辺）はどんよりとけづっていた。時折鼻を突くような魚の腐臭が海風に混じって吹き寄せて来る。よく見れば津波の引潮によって堆積した残骸の中に無数の魚が散乱しているのだ。聞けば、市場の中に保存されていた冷凍魚、それもマグロなどの高級魚、約4万5,000トンが波にさらわれたという。

「うちの従業員は、今腐臭に群がる海鳥と競争で、散乱した魚を撤去するのは毎日の仕事ですよ」と須能氏は自嘲気味に話す。

さて、須能邦雄氏のことだが、彼は昭和38年我が水戸一高を卒業し、東京水産大学（現東京海洋大学）に進学した。高校、大学と相撲部に属し、酒に酔えば正調相撲甚句から自作の詩吟まで披露する堂々の水戸っぴである。

子供の時映画館で日ソ漁業交渉のニュースを見てこの道に志したというから、根っからの水産マンでもある。大学卒業後、大洋漁業（現マルハニチロ）に入って北洋のサケ・マス漁船団で働いた。200海里的経済水域設定で日本の水産業が危機にひんすると、シアトルや旧ソ連のサハリンに駐在し、日本向けに水産物を輸出する合弁事業に取り組んだ。

マルハを退職した後は水産庁の審議会委員などを務め、我が国の漁業政策に深く関わった。17年前、石巻に移ってからはこの町を第二の故郷として漁業の発展に努め、水戸一高相撲部で培った持ち前の馬力と漁業に関する豊富な見識で、石巻港を全国第3位の漁獲量まで押し上げた。

だが、3月11日の巨大地震とそれに続く津波はあっという間に石巻港を壊滅させた。崩れ去った魚市場を見つめながら、須能氏は3月11日の模様を語ってくれた。

### 迂回が生死をわけた

あの日の午後、須能氏は魚市場の管理棟で会議中であったという。あまりに激しい揺れのため会議を中断し、参加者に避難を促して自分も海から離れようとした。この時屋上から見た海面はいつもより穏やかで静寂であったことが、かえって不気味だったという。

海岸と平行に走る国道を西に行くか東に行くか迷ったが、どちらも混んでいたのを抜けて間道に入った。普通なら自宅のマンションにまっすぐもどるところだが、この日は妻が実家のある船橋に帰っていて留守だったため、あえて急いで帰ることもなく山側に迂回したことが、結果的には彼の生死をわけたことになったという。その後分かったことだが、自宅のマンションは1、2階が津波によってぶち抜かれていた。

そのまま自宅に戻っていたら……。

運命としか言いようのない人生の不可思議さに、まさに「生かされた」自分を実感したという。

その後の須能氏は、「生かされし者」の自覚のもとに石巻漁港の復興に全力を尽くしている。

去る7月12日、石巻港で震災以来初めての水揚げがあった。長さ60メートルの仮設テントを作り、2.5トンのイカを水



須能氏の案内で漁港の状況を見る（左から川又、須能、持丸、広田の各氏）

揚げした。盛時と比べれば微々たる量だが「魚の顔を見れば町は元気になる」との思いで再開に踏み切った、と須能氏は話す。その後水揚げは徐々に増え、8月には日に20トンになり、9月からは100トンの水揚げを予定しているという。これからは港湾の整備、水揚げ棟の再建、関連施設の建設など課題も多く、須能君の前途はなお多難である。

### 一日も早い賑わいを

かつて石巻漁港は、1日450トンの水揚げがあった。魚市場は大勢の仲買人、観光客の群れで賑わい、魚の町石巻の人々の目は希望と活気にあふれていた。いま須能君はそのような日が一日も早く来ることを願い、今日も仮設テントの中を走り回っていることだろう。

須能君は宴会になると決まって自作の甚句を歌っていたそうだ。

北上河口のその漁港（まち）は、食彩、感動、石巻。

輝く伝統、わが誇り。ハァー、ドスコイ、ドスコイ。

やがて石巻がもとの元気な姿を取り戻した時、水産界の先頭に立ってその復興に尽力した「水戸人・須能邦雄」君の名は永く顕彰されるに違いない。その時、この甚句は彼の定番から離れ、「石巻甚句」として多くの市民に歌われることになると思う。

（昭38卒、持丸 博 記）

## よんろく(46)会 卒業40周年記念同窓会

母校を卒業して40年が過ぎ、年齢も「アラ還」となる年に記念同窓会を開催しました。よんろく会では、卒業25周年より毎年5年毎に記念同窓会を開催しています。

どの学年も同じだと思いますが、現住所確認が大変な作業です。我々は25周年のときから双方向のホームページを立ち上げ、全員がアクセス(パスワードあり)でき住所変更や出欠の意向を記入できるようにしてあり、今回も110名ほどの参加者を得ることができました。但し、今回は8月13日(土)の開催であり、お盆と重なり、さきほどのホームページの書き込みにも批判等があり、5年後は開催日を検討する必要があるようです。

さて、当日は高校時代大変お世話になった先生方5名(清水正美先生、石橋守先生、鶴巻勝夫先生、濱崎厚先生、山崎睦男先生 順不同)にご出席して頂き、一言ずつお言葉を頂戴しました。卒業40年たった我々の恩師ですから、ご自分の健康に関するお話が多かったようですが、我々を鼓舞するようなエールもあり、あらためて元気づけられました。よんろく会の代表幹事は公明党党首の山口那津男さんです。混迷する政治状況の中、わざわざ駆け付けてくれ、挨拶をしてくれましたが、彼には日本のために頑張ってもらいたいと思います。

記念同窓会開催の度に、いままでは「在校生士気高揚資金」を徴収していましたが、今回は「震災義援金」ということで531,000円を集めることができ、出席して頂いた角田芳夫知協会会長に目録として当日手渡すことができました。水戸一



高の復旧のために、ぜひ有益に利用していただきたいと思います。

なお、現水戸一高校長は、同級生の早川源一さんであり、彼には来賓席に着

席してもらいましたが、クラス席にいたかったようです。そんなこんなで2時間30分はあっという間に過ぎ、校歌を歌って解散となりましたが、約50名が二手に分かれ2次会に集結、約40年の時の隔たりを感じるようなこともなく、夜遅くまで語り明かしました。この5年毎の同窓会がいつまで続くか分かりませんが、時間の経過の残酷さと真正面から向き合い、出来るだけ長く開催してゆこうと、あらためて思いました。

昭46卒 富永潤一(記念同窓会事務局)

## 行餘学会市民講座：「裁判員裁判の今——司法改革の光と影——」

8月13日(土)、那珂湊公民館で行餘学会市民講座が開かれました。裁判員制度が始まって3年がたち、見直しが始まっている現在、日本弁護士会前副会長の足立勇人氏(昭49卒)に、司法改革の光と影について講演して頂きました。



裁判員の選任の仕方から始まり、なぜ裁判員裁判なのか、法曹養成の改革とその結果、アメリカの陪審制度との比較、そして見直しのポイントなど熱のこもったかつ内容を理解しやすくする挿話も盛り沢山のお話でした。

裁判官が調書を優先して法廷が形骸化し、判例変更を嫌がる傾向など、調書裁判の弊害の話聞き、司法制度改革の一つとして裁判員裁判がある、という点には納得しました。

アメリカの陪審制度との比較では、陪審制度では有罪か無罪かの事実認定だけで、量刑は専門家が行っているという点から、これからの見直しにこの点は考慮すべきではとの指摘がありました。講演後の質問も活発に出て、実り多い講演会でした。

第2部の行餘学会の総会・懇親会は春日ホテルで38人が出席して催されました。総会は、東日本大震災でお亡くなり

になった方および前会長大和田一氏の冥福をお祈りして、1分間の黙祷で始まりしました。その後、行餘学会会則案が提出され、一部手直しの後、承認を受けました。懇親会場に移り、大平征二新会長のご挨拶の後、梅原徳昭元会長の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。知協会から栗原英則幹事長にもお越し頂き、東日本大震災の学校の被害状況についてと義援金への謝辞および使い道などの説明がありました。最初は何人かの人にマイクを回す予定でしたが、全員が一言ずつ(では終わりませんでした)近況を述べ、盛会のうちに閉会しました。最後の締めは、足立氏講演ということで集まってくれた昭49卒大応援団の音頭での第一校歌「旭輝く日の本の」の斉唱でした。

(昭47卒 宮内寿子)

## 東日本大震災後の地方大会の開幕式、開幕カードをみて

第93回全国高校野球選手権「茨城県」大会 水府倶楽部 堀江 効(昭34卒)

7月9日(土)、水戸市民球場で開会式が行われた。母校の水戸一高は、今年は開幕カードである。開会式の102校の行進は圧巻で、まるで甲子園にいるようである。

先頭は、前年度優勝チームの水城高校、しんがりは県内でもっとも古い歴史をもつからであろうか母校、水戸一高であった。気温がみるみるあがり、プラカードを持つ女生徒2人が途中で退場するハプニングもおきた。冒頭に大震災で犠牲になられた方々への黙祷をスタンドの方も起立して行い、次いで龍ヶ崎一高の桜井主将の選手宣誓。今大会は特別の大会、「被災者に希望と笑顔を」と野球ができる喜びを高らかに宣誓してくれた。

スタンドでは、前席に高校球児の母親とみられる二人の女性のユニフォームの後ろに「東風」とあり、「何処の校名ですか?」と興味津々聞いたところ、「はるかぜと呼ぶんです。」という答え。学



昭和31年(1956年)優勝(水戸一高 2-0土浦三高、4連覇成る。)

問の神様、天神様の菅原道真の由来で、つくば国際大学東風（はるかぜ）高校は、大会5日目に日大岩瀬高校と対戦する。なかなか正しくは呼べない校名であるが、そういえば、たしか「東風（こち）ふかば思い起こせよ・・・」という和歌があったようにも思える。

さて、開幕カードの水戸一×友部。戦前の予想では接戦とか。先取点がカギという。しかし、結果は10-0、5回ワールドと一方的な水戸一高の勝利に終わった。母校は10年振りに監督が交代。その試合運びに私も注目していたので、好スタートは嬉しい限りである。今年は創部120周年の年で6月には先輩達が資料不足・資金不足で長年なし得なかった部史が遂に発刊にこぎつけることができたので、勝利は本当に良かった。

**「熱球120年野球部史の発刊なる」**  
“熱球120年水戸中学・水戸一高野球部の軌跡”、全780頁、定価6,000円

明治24年（1891年）に創部され全国有数の歴史に部員の汗と涙の結晶が凝縮されています。ご紹介申し上げます。ご購入のお申し込みは、水府倶楽部、藤枝（090-4122-7648）、乾（090-5319-0284）、綿引（090-9012-5209）までご連絡下さい。



平成17年卒東海村在住の小川瞳さんから、11月27日(日)のピアノリサイタルの素敵な案内状を頂きました。8月20日、水戸プラザホテルでのミニコンサート開演前の忙しい時間をさいて頂き、お話を伺いました。楚々とした雰囲気若きピアニストです。ピアノを弾いているときの音楽に没入している様子、そして、話をしているときの静かな佇まい。どちらも自分の中の何かを、音や言葉で一生懸命に語ろうとする様子が印象的でした。

ショパンやリストなどのロマン派が好きだとのことですが、今回の演奏にはバルトークも入れているそうです。ガーシュインもよく弾く作曲家だとのこと。何よりも楽しんで聴いて欲しいし、聴きにきてくれた人が退屈しない演奏を心がけていると語ってくれました。

自分でも文章を書く小川さんの好きな作家は、日本では村上春樹、村上龍、天童荒太だそうです。ドストエフスキーやランボームもよく読むそうですが、音楽も文学もどちらも自分にとって無くてはならないものだとのこと。小川さんの作品は、日常性と自分の間にある薄い膜のようなものを表現し、ある種のもどかしさを描いていると思います。音楽ではもう少し直接的に自分をぶつけることが出来るのかもしれませんが。

ピアノ演奏では、出来るだけ作曲家の表現しようとするものを掴み取って音にしたいと言っていました。「あなたが成長することで表現する世界も変わってゆくと思いますが、それは、その前がより完成度が低い

ということとは違いますが、という問いに「違うと思います」と答えてくれました。「そのときの最善であって、それはそれでその



水戸プラザホテルアトリウムガーデンで演奏する小川さん

ときにしか表現できないものを表現していると思います」とのこと。若いときだから表現できる境地というものもあるのでしょうか。ピアニストとしても文章を書く人間としても、その成長を見守りたいと思います。

最後に、高校時代を振り返って感じることに、後輩に伝えたいことを聞きました。水戸一高は個性を尊重してくれ、自由に受け入れてくれる学校だったと言ってました。ピアノが好きで、文学が好きで、それに熱心に向き合っている姿をごく自然に銜うことなく、友人たちに示せたそうです。

小川さんを写していた同行のカメラマンも、小川さんの雰囲気が心地よかったです。自分の学生時代の話を一頻りしていました。

コンサートは11月27日、水戸芸術館コンサートホールで、15:00開演です。チケットが2000円で発売されていますので、聴いてみたいと思われた方は是非、芸術館に足を運んでみてください。

## 上海通信

### 大震災その後

茨城県上海事務所  
川又敏郎(昭49卒)



北京にて筆者

中国国内での東日本大震災の報道ぶりは異例でした。他国の出来事には多くを割かないといわれるメディアが連日トップで報じたのです。テレビも特集を組み一週間以上映像資料を繰り返し流しました。

報道を通じて多くの中国人には「日本はどこも危ない」「日本のものは全て汚染されている」という印象が残ったのでしょうか。上海でも日本料理屋がガラガラになり、百貨店の日本食品売り場が狭くなり、日本への旅行客が激減するなどの現象がありました。当時は中国から沖縄や長崎へ行くフェリー便までがストップしてしまいました。

その後、日本料理屋の材料は日本からの輸入品ではないことがわかり以前のような盛況ぶりですが、輸入食品や日本への旅行などについては制度の問題に風評被害が重なって苦しい状態が続いています。

茨城県上海事務所は5月から7月にかけて、上海や北京で開かれた旅行博覧会等の展覧会に出展し、安全情報や県内観光地情報の提供、茨城空港へ就航している春秋航空茨城便のPRを行って来ました。

その際には多くの旅行関係者や一般の旅行商品購入者とお話する機会を得て、皆は放射線量等安全情報を良く理解していることがわかりました。しかし気持ちとして日本旅行商品を積極的に選ぶまでにはもう少しかかるとのこと。中国の旅行シーズンのピークは国慶節（10月）と春節（2月）の2回。国慶節の日本旅行商品販売は苦戦したようですが春節での挽回を期待し、より多くの方に茨城の情報を提供していきたいと思えます。

## 新刊紹介

### 私が出会ったヨブ

碧天舎1000円  
渡辺さとみ(和子)  
昭47卒

表題作の「私が出会ったヨブ」は「何故、何も悪いことをしていない人に不幸が訪れるのか?」という、著者の心に影を落とし続けた問いを追った作品である。クリスチャンの家庭に育ち、聖書を読むことが日常生活に根付いた人の思索の後の後が辿られている。多摩全生園でのハンセン病を病んだ人やそれを支える人たちとの出会いを通して、神が「ヨブを選び、ヨブに過酷な試練を与えた理由は、自分が創造し、自由意志を与えた人間の隅々まで知りたかったからだ」という認識に到達する。キリスト教文化の理念主義・理想主義の根っこの部分が伝わってくる作品である。



# 委員会

## 総務委員会

☆第12回(平成23年度)「会員の集い」に向けての準備を、担当学年(昭55卒、平2卒、平12卒)と5月から

行ってきました。

一昨年のジャズバンド、昨年の1分間発言タイムと例年好評な企画を担当学年が立案企画し、実施してきた結果、「会員の集い」の参加者は増加傾向にあります。そして、今年の企画は、「カラオケ大会」。有りそうで無かった企画です。ぜひ同級生、先輩、後輩の歌声を聞きに来て下さい。

さて、NHKラジオに「つながるラジオ」という番組があります。ラジオの特性「双方向性」を強く打ち出した番組のようです。会員と会員、地域や職域知道会どうし、更には学年間をつなぐ役割が知道会活動の重要な柱であると言えます。そこで「つなげる知道会」である為に、総務委員会は活動していきます。

最後になりましたが、3月11日の東日本大震災に被災された会員の皆様、ぜひ知道会とつながることで、頑張る元気を一杯にして下さい。

(総務委員長 粉川 勝)

## 財務委員会

銀行等預金口座振替による年会費納入のお願い

財務委員会の仕事は、知道会事業の予算・決算に関するのですが、年会費収入の安定化にも取り組んでいます。

その一環として、現在年会費の口座振替を推進しています。口座振替は、皆様の毎年の振込み負担が軽減されるとともに、会費管理事務の効率化が図られ、知道会の目的である「会員相互の親睦」と「母校発展の助成」事業の安定に寄与することができます。

さて、今年度(60期)の会費納入者数は、目標5,000名に対し4,300名余に止まる見込みであり、これは、計画比86%、前年度実績比95%と、会費納入者数が減少しております。

このままでは、知道会の財政基盤が揺るぎかねないと懸念しており、会員の皆様の年会費納入につきましてご配慮の程、よろしくをお願いいたします。

新しい事業年度を迎えるにあたり、「年会費の振込み用紙」を同封いたしました。

次年度より年会費の口座振替を希望する方は、「年会費振込用紙の通信欄」に「口座振替依頼書希望」と記載下されば、口座振替依頼書を後日送らせていただきます。

## 名簿委員会

5年ごとに発行の会員名簿、「平成24年度版」の制作に入りました。皆様のお手元には、それぞれの現況確

認のメール便が届いていることと思います。判明率も、おかげさまで、90%に近くを維持しつつ、これも、日頃からの会員各位のご協力に、改めて感謝申し上げます。

お願いがあります。ご承知かとは思いますが、名簿発行に際しましては、その経費のすべては、名簿の販売並びに、巻末の賛助広告で賄っております。とくに、賛助広告による収入は経費の大半を占め、毎回ご協力頂いている会員各位諸君には、深く感謝申し上げる次第です。

今回の発行に際しましては、未曾有の大震災の影響もあり、紙材の高騰で原価等、前回の販売価格を維持すべく、委員会一同苦慮しております。出来ましたら、以前から広告に賛助頂いておりました会員各位のご協力はもちろんのこと、新たに賛助頂ける会員各位の、お申込みをお願いいたします。広告に、お申込みいただけただけの会員には、無償にて名簿の送付をさせていただいております。個人にてのお申込みのみならず、地域・職域連名での掲載も可能です。各位のご協力をお願い申し上げます。

平成24年度版は6月の発行を予定しております。

(名簿委員会 奥野茂雄)

## 親睦委員会

本年度も例年の如く、親睦委員会は①親睦ゴルフ ②OBミニ歩く会を中心に企画・運営を実施しています。

親睦ゴルフ大会は、6月4日(土)にセブンレイクスで行いました。例年に比べて参加者が少なかったのですが、震災等の影響によるものと思われます。次年度は、大洗ゴルフ倶楽部で木曜日に開催の予定です。

OBミニ歩く会は例年参加者が増えています。何より、地元の知道会の方々との出会いを毎年楽しみにしております。本年度は大洗の知道会(会長 昭和26卒 雨澤久夫様)の皆様の協力と、昭和29卒の川上清様のご指導を受け、10月2日(日)に開催いたします。今回のコースは、近代日本の夜明けをテーマとした「幕末と明治の博物館」を出発点とし、自然と歴史が堪能できる約6Kmの素晴らしいコースです。どうぞふるってご参加ください。

また、今後の活動としては、知道会全体の課題でもあります「女性会員の拡充」に傾注してゆきたいと思っております。

## 物故者(H23.4~8)

歴代校長 保立謙三	昭18中 小泉 博	昭23中 志賀 忍	昭32高 渡辺 瞭
旧職員 大和田健児	昭18中 瀬谷芳久	昭24中 会沢 暹	昭33高 館 数馬
旧職員 久野輝雄	昭18中 立原甲一	昭24中 小林成敏	昭33高 後藤篤彦
旧職員 鈴木俊行	昭18中 宋倉 豊	昭25高 桧山隆昭	昭33高 小幡 昇
大13中 北橋(川崎) 義好	昭19中 植村 秀	昭25高 海老沢俊夫	昭33高 斉藤啓輔
昭3中 川野輪政夫	昭19中 菊地恒夫	昭25高 渡辺 修	昭33高 田土部勝昭
昭4中 前川陽三	昭19中 根本致知	昭26高 岡部惣吉	昭34高 古渡紀彦
昭5中 大和田健児	昭19中 松尾 裕	昭26高 山崎好道	昭35高 篠崎勝利
昭8中 林 正行	昭19中 吉井唯士	昭26高 柴田好一	昭35高 沢幡尚秀
昭11中 山村乾一	昭20中 鴨志田瑞夫	昭27高 飯村 清	昭36高 瓦葺隆彦
昭12中 山田栄士郎	昭20中 見目(石井) 忠	昭27高 亀山和右	昭36高 大内荘平
昭13中 柴山(長谷川) 廣司	昭20中 市毛昭一	昭27高 久保田(中崎) 秀雄	昭36高 桑山 繁
昭13中 武子源正	昭20中 富永正三	昭28高 杉山 稔	昭37高 赤津 毅
昭15中 飯塚穰潤	昭20中 滑川治朗	昭29高 林 正義	昭37高 内山 武
昭15中 榎田(金澤) 康男	昭20中 加藤木 喬	昭29高 近藤 武	昭37高 佐藤正勝
昭16中 久保田武彦	昭20中 生田目忠信	昭29高 高橋 浩	昭37高 豊田誠一
昭16中 小鹿尚久	昭20中 深谷和男	昭29高 谷萩憲一	昭37高 浜崎良昭
昭16中 佐藤正常	昭20中 武藤五郎兵衛	昭30高 赤井一隆	昭38高 赤津 明
昭16中 砂押 寛	昭20中 和田 昭	昭31高 柴田啓介	昭39高 坂倉正純
昭16中 田崎孝安	昭21中 飯村康二	昭31高 谷田部隆夫	昭39高 神谷信慶
昭16中 田中照吾	昭22中 市野沢晴孝	昭31高 菊池邦彦	昭39高 樋口弘志
昭16中 友部寛治	昭22中 今泉照夫	昭31高 関(岡本) 寛	昭39高 藤咲和弘
昭16中 野上 滋	昭22中 岡部善明	昭31高 白土英男	昭40高 海野宣三
昭16中 桧山茂樹	昭22中 亀井巳代治	昭31高 上杉 明	昭41高 館野也彦
昭16中 廣瀬隆蔵	昭22中 小松崎孝司	昭31高 寺門久芳	昭41高 甘楽善正
昭16中 川島賢三	昭22中 笹島光男	昭31高 中村卓雄	昭50高 桧山伸夫
昭17中 大森 信	昭22中 高野(白土) 壮一郎	昭31高 小原利彦	昭53高 高野義則
昭17中 中村良男	昭22中 津田長幹	昭31高 小林英男	昭57高 上野勲夫
昭17中 遊座治夫	昭22中 檜山正美	昭31高 徳永 学	平12高 浅野 寛
昭17中 藁谷直人	昭22中 宮澤重夫	昭31高 師岡宏延	
昭17中 渡辺(橋本) 篤	昭22中 弓野利夫	昭31高 関 久夫	